

おらが支部の有名人



一番右端で眼鏡をかけているのが、
大学3年生当時の高木さん

『人の出会いと男声合唱』

私は、1993年より『男声合唱団 東京リーダーターフェル1925』（以降TLTと表現）で、歌を楽しんでいます。

同志社大学グリークラブの指揮者として活躍された故山口隆俊氏（初代指揮者）、故秋山日出夫氏（後の全日本合唱連盟理事長）等によって創立、今年で78年目を迎えます。

これまでに、合唱コンクール3年連続優勝、TV・FM出演、CD録音、定期演奏会、地方演奏会、芸術祭参加など幅広い活動を展開しています。

創立当時からドイツ合唱界と交流を始め、1968年、76年、83年、93年と4回にわたり、ドイツ合唱連盟主催の合唱祭に招待を受け、わが国の合唱文化を紹介するとともに、ドイツ各都市の合唱団との交流を深めています。

1970年、名古屋の東海メルクリア-と日比谷公会堂にて合同演奏会（左上、合唱サークル表紙）を開き、後の日本男声合唱協会（JAMCA）を発足させるきっかけとなりました。

更に、TLT元会長五十嵐徹氏が、赴任先のソウルで『韓国男声合唱団』に入団したことがきっかけで交流を持ち、1985年第1回の日韓親善演奏会が東京で開き、以後2年毎に日韓持ち回りで開催（近年は3年毎）し2000年に第7回を東京で開催しました。

高校時代よりコーラス（混声）を始め、名古屋の某私立大学に入学した時、理工学部で作られていた男声合唱団に誘ってくれた山田信夫先輩、2年生より学生指揮者になった私を、「勉強になるからうたいにきたほうがいい」と誘っていただいた都築義高先生（現東海メルクリア-会長）、そして今のTLTに「時間がとれば来ませんか」と入団を勧めていただいた千葉光輝氏（TLT元会長で偶然にも私の勤務先で住宅を契約してくれたお客様）と、私が歴史あるTLTに入団するまで、いろいろな方との出会いがありました。もし一人でも出会っていなかったなら、TLTでうたうことは無かったと思います。

私は、コンサートホールの設計はできませんが、愛知県芸術劇場コンサートホール、東京芸術劇場、すみだトリフォニーホール、北とびあさくらホール、きゅうりあん大ホール、東京国際フォーラム ホールCなどあちこちのホールでの使用経験から、ホール設計に際しての使用側からのアドバイスの少しはできると自負しています。

船橋支部 本部会計理事 高木憲一
株式会社 都市造形事務所 代表取締役

今後の演奏会予定は次のとおりです。

2003年6月18日～29日 第5回ドイツ演奏旅行
2003年12月7日 2003定期演奏会すみだトリフォニーホール
2004年7月 日本男声合唱協会東京演奏会
2005年 日韓合同東京演奏会

URL <http://village.infoweb.ne.jp/fwkw3522/tafel/>

「なぜか、大学で建築を学んだ人に合唱を趣味にする人が多い。」何故？芸術などと大げさな表現をするつもりではない。何もないところに何かを作り出し、美しく感動するものを生み出すことに、喜びを感じる環境を体験しているからであろう。かくいう私も大学で建築を学び、自身でデザインする能力には、とうの昔に見切りをつけていますが、少なくともその種の仕事をすると人たちと限りなく近くに居たいという、場合によると経営者でもないのに、建築家にデザインを依頼する窓口にいたという驚沢な立場を40年近くやってきました。これを今、社会では「ファシリティマネジメント」と言われているのをご存知ですか。私は、前述の筆者である高木憲一さんと同じ合唱団でたいした声も出せないで頑張っていますが、アマチュア合唱団としてはそれなりに、名が通っていて大きな顔をして活動しています。個人的には、これも芸術の一端に食らい付いているという満足感で、意義深いものがあります。

（男声合唱団 東京リーダーターフェル1925 会長加藤達夫）



1995年4月14日 東京芸術劇場大ホールにて